

委員質問・意見等

第 146 回定例会（8 月 5 日）受付分

（内藤委員）

● 東京電力(株) に対する 質問

別紙のとおり

（8 月 8 日）受付分

（三井田委員）

● 東京電力(株) に対する 質問

震災が起こった際、安全停止までは心配しておりませんが、その後の安定した冷却において、以下の点が不安なので教えてください。

・基礎工事のしっかりしてる建屋とそうでない所との地盤強度の違いにより、電線や配管類など埋設施設が地面の隆起による破断の危険性があると思うのですが、対策はしてあるのでしょうか？

・万が一の電源含む冷却系統損失に備え、様々な特殊車両を配備して下さっていると承知しておりますが、上記同様の事態による道路の破損により、特殊車両が建屋まで到達するのは困難なのではないでしょうか？その対策はどの様にしてらっしゃるのでしょうか？

● 新潟県 に対する 質問

県知事をはじめ、様々な方々がその知見を抛り所としている新潟県技術委員会ですが、もう少しどういった活動をし、どういう進捗で色々な懸案事項を解決すべく進んでおられるのか、地域の会で定期的にかつ分かりやすくご説明頂く事は出来ないのでしょうか？

( 高橋 (優) 委員 )

● 原子力規制庁 に対する 質問

2015・8・5 第146回地域の会定例会

県知事に対して激しい原発再稼働の圧力がかけられているようです。一つは、「福島事故の検証の不十分な状況で作成された規制基準は基準足り得ない」とする姿勢に対してでしょう。福島原発事故の検証は技術委員会に丸投げされている問題はあるかもしれません。しかし、県議会でも、記者会見でもこうした基本的姿勢は貫かれています。だからといって再稼働は認めない、原発ゼロとは言わない。検証が終わった後、どう対応するのかは未知数です。どうするかは未知数。全国には「脱原発をめざす首長会議」がありますがそこには参加はしていない。二つは、2002年の東電データねつ造事件で、県が設置した「技術委員会」が原発の安全にかかわって、実質的に審議する体制がつくられています。委員の努力もあって新潟方式と呼ばれる審議形態が築かれています。会議は毎回市民が傍聴し、資料や議事録もwebにアップされて県の努力の跡がうかがえます。知事の姿勢を反映して、県原子力防災課は、基本的には福島事故の検証を最優先させています。なおいっその時間がかかるのは止むを得ないことでしょう。時間をかけただけの成果は必ず得られるでしょう。この技術委員会の運営においては大きな問題があると思います。それは原子力規制庁が一貫してこの技術委員会を欠席していて議論・検証に加わってなく、交わされる意見を聞こうとしないことです。事故の検証には当然国の対応も問題になるはずではないですか。新潟県民・柏崎市民を見下しているのではないですか。毎回規制庁の出席が求められているにもかかわらず参加をしていないということは、県民・市民に対する背信的行為ではないのか？

説明責任を果たして頂けないでしょうか。

## 7月の東京電力の電力需要と原発不要についての質問

内藤 利成

東電は4月16日、気温が平年ならば、4,920万kw、2,010年並の猛暑なら5,090万kwだとの夏の7月・8月の需要想定を行なった。

今日は8月5日である。8月の需要がどうなるか不明だが、7月の実績は、最大は7月27日の4,729万kwであった。

この値は、平年の想定値4,920万kwより191万kw少なく想定96%でしかなく、猛暑の想定値5,090万kwより361万kw少なく想定93%でしかない。

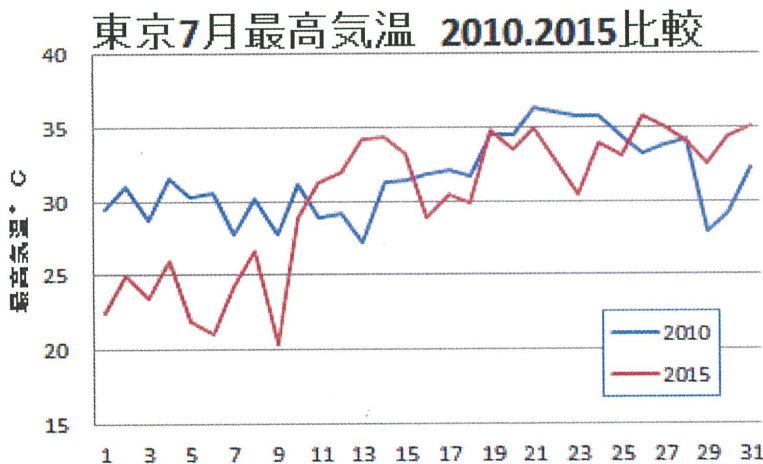
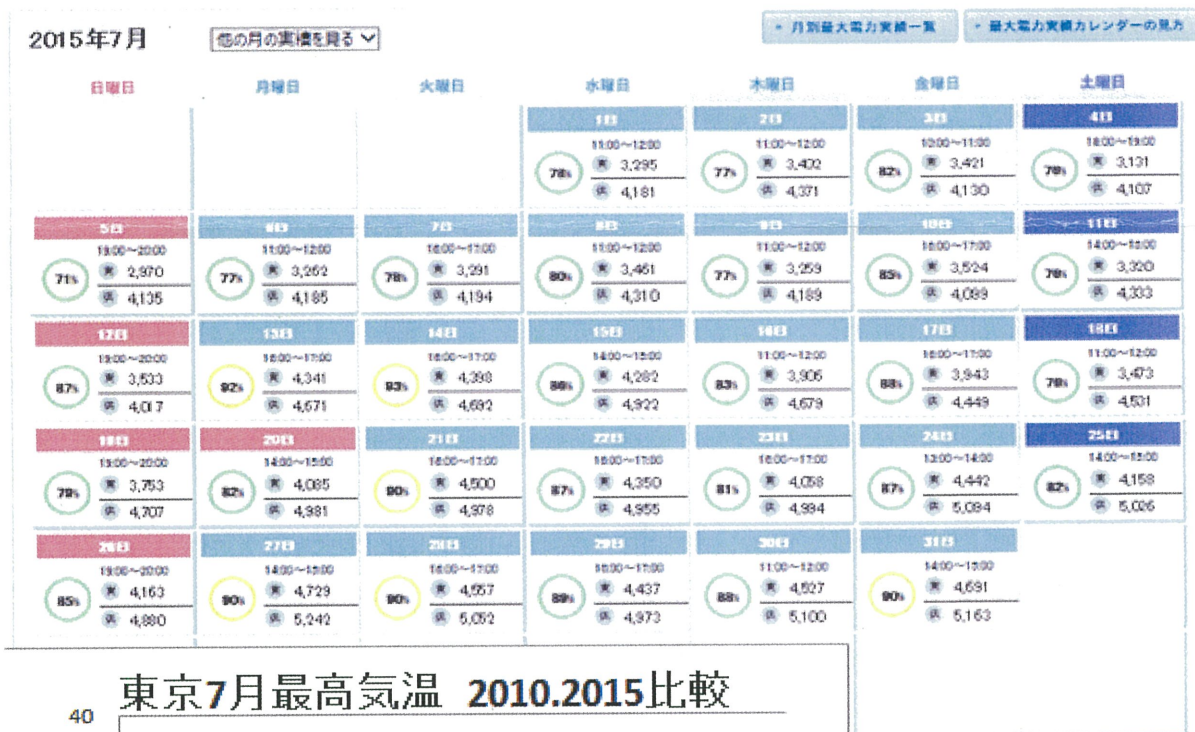
東京の今年7月の最高気温を2010年と比較すると、上旬は2010年が高かったが、中旬も下旬も今年が高い。東京電力に問う。

質問1：アメダス東京の今年7月の最高気温は猛暑を示していると考えますが、東電は今年7月の気温を、平年とするのか猛暑年とするのか。

質問2：7月の最大電力は、想定より相当少なかった訳だが、過大な想定をしたことにならないのか。

質問3：想定と実績が乖離した理由は何か

質問4：原発が停まっても、電力需要が少なく発電設備に余裕があることは、原発が不要なことを示しているのではないのか。



■ 月内の最大電力実績日  
※月内の最大電力実績日は、翌日2日から表示いたします。